

世界から スーダン

今井 高樹

「食材の値段がこう高くつちゃ、何を作ればいいって言うの？」と嘆くのは、私たちが運営する車両整備工場の食堂担当者。今日のおかずはキャベツ煮込みだが、去年は

食料難補う家庭菜園

一個三スーダン（百五十円）だったキャベツが、今は七スーダン（三百五十円）もする。

二十年以上にわたる内戦が三年前に終わったばかりの北アフリカのスー



収穫したカボチャを抱えるアレックスさん
（筆者撮影）

り、食品の値段が一気に上がった。世界的な原油高、食料高騰の影響も大きい。

「だったら、自分で野菜を作ればいい」と言うのは自動車整備士のアレックスさん（四七）。オクラ、豆類、カボチャ……。うちにはもともと農家な「さ」と言うだけあって家庭菜園は見事だ。時代の波にさらされながらも、したたかに力強く生きるすべをスーダンの人たちは身に付けている。

◇

いまい・たかき 北大卒業後、会社員を経て、昨年5月から日本国際ボランティアセンター職員としてスーダン南部・ジュバに駐在。今年2月、札幌で報告会を開いた。46歳。